



# 『青山学院大学五十年史』の編纂を終えて

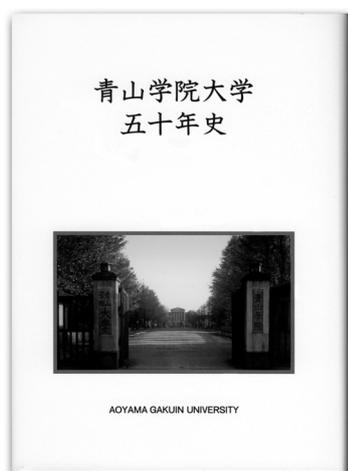
青山学院大学教育人間科学部教育学科助教 佐々木 竜太

## はじめに

本学にとって初の大学史となる『青山学院大学五十年史』(以下『五十年史』)が2010年11月に刊行された。ここに至るまでには様々な困難があったが、全780ページの書として上梓することができたのも、資料調査、聞き取り調査等でご協力いただいた学内外の多くの方々のおかげであり、この場を借りて心から感謝を申し上げる次第である。ここでは皆様への完成のご報告とお礼、そして初めて刊行を知った方々に興味をもっていたくために、『五十年史』の構成や内容の簡単な紹介、刊行に至るまでの経緯、その過程で見えてきた課題について、編纂に携わったひとりとして報告させていただきたい。

## 『五十年史』の紹介

『五十年史』は全体を四部構成とし、第Ⅰ部「青山学院の設立と発展」では学院の歴史を、第Ⅱ部「青山学院大学の設立と発展」では大学が発足した1949年から相模原キャンパスが開設した2003年までを対象とし、開設時の状況と拡充していく過程、大学紛争、校地問題などについて叙述した。第Ⅲ部「学部・学科の設立と発展」では学部学科ごとにその設立経緯や展開を、第Ⅳ部「キリスト教教育の展開と神学科」では本学の建学の精神を培うキリスト教教育の歴史的歩みについて記述した。巻末には年表と索引を、本文中では必要に応じて表や図、写真等を掲載して、読者にとって利便性の高い本となるような工夫を凝らした。コラム欄を設け、その時代に特徴的なエピソードをまとめたこともその一環である。



## 刊行に至るまでの経緯

『五十年史』の編纂は、「青山学院大学50周年記念」の一事業として計画されたことに始まる。編纂に向けてまず、1998年8月に「青山学院大学五十年史編纂室」が設置され、文学部教授の沼田哲先生、酒井豊先生、大学院生の鈴木勇一郎氏、西井正造氏(いずれも当時)が編纂補助員としてその準備を始めた。1999年3月には、「青山学院大学五十年史編纂委員会」が発足して各学部代表の教員、事務職員らが委員となり編纂を本格的にスタートした。(2001年4月からは鈴木氏が文学部助手に、筆者が編纂補助員に就任した。)

作業としては、編纂室を中心に各部局に散逸している資料を調査し、目録を作成することから始めた。法人本部に設置されている「青山学院資料センター」には、学院関連の資料が多数収集・整理されていたことから大学関係の主要な資料は確認できたものの、やはり1949年の開学以降の歩みを原資料にあたって叙述するという編纂方針上、事務局など各部局に保管されている資料調査を進めることは必要不可欠な作業であった。

しかし、いざ始めてみると、その作業は予想を上回るほど膨大であり、特に8号館地下倉庫、6号館地下倉庫、間島記念館地下倉庫には、未整理の状態でありながら、重要な資料が山のように積みもっていた。作業着に着替え、マスクをして倉庫に入っては埃にまみれた貴重書類を整理しつつ、それら資料について多くの議論を交わしたことは、編纂上はもちろんのこと、個人的にも知見を深めることができ、大変有意義な経験となった。

そうした作業を重ねた成果として、2001年3月に『青山学院大学沿革史料集(一)』を、2002年7月に『青山学院大学沿革史料集(二)』を発行した。この頃には、資料の収集や目録化が進んできたことから、具体的に『五十年史』の資料篇の刊行に向けて目次案を作成して検討を重ねるとともに、統計資料作成のための作業も進め、2003年11月に『青山学院大学五十年史 資料篇』を刊行す



6号館地下倉庫



間島記念館地下倉庫

ることができた。

そして次の、いわば通史篇の完成に向け全力を尽していた矢先、その中心的役割を担っていた沼田先生が2004年6月に逝去されたことは、大きな痛手となった。刊行計画を大幅に変更しつつ編纂作業を進めたものの、その後青山学院130年史編纂事業が始まった影響もあり、結果的に、大学五十年史編纂委員会ならびに編纂室は事実上運営を停止してしまった。

その後2007年頃から、通史篇完成に向けて体制が再編され、編集者の戸塚仁氏にご協力をいただきながら、残されていた原稿を編集、リライトする作業を続けた。他大学に移った者も含め、少人数での体制で編纂を進めざるを得なかったことが時間のかかる要因となったが、先述の通り2010年11月に刊行を見、ご協力くださった方々、学内各部署に配布するとともに、国公私立大学（一部を除く）、研究機関等へ送付された。

## 次回の編纂事業に向けての課題と「青山学院資料センター」への期待

このように、1999年から本格的にスタートした編纂事業が、2010年の『五十年史』刊行をもってようやく終了の運びとなった。学校沿革史が単なる記念誌ではない、実証的視点をもった歴史研究として編纂されることが求められている今日において、本書ができる限り原資料にあたり、事実を客観的に記述することによって、本学の特色ある歴史を明らかにし、「正史」と位置付けることができる書として刊行されたことは、大きな喜びである。しかし、刊行まで約12年の歳月を要してしまったことは、その過程において不可避の事情があったとしても、編纂に携わった者として反省せざるを得ない。

今後、学院や大学など各部における創立の節目ごとに立ち上がる年史編纂の企画が順調に進む

ために、刊行を終えた今考えられる重要なことのひとつは、編纂執筆体制を早期に確立することである。特に学院史に関していえば、①『青山学院九十年史』（1965年）が通史の形態で刊行された直近のもので、それ以降の『青山学院100年』、『青山学院120年』はいずれも写真集的要素の強い冊子であること、②『九十年史』の刊行から大幅な時間が経過し、その間新たな資料が発見されていることなどから記述の大幅な見直しが必要であること、③『九十年史』が実証的、客観的視座に欠けること、といった課題があることから、次回の学院史を実証的・歴史的研究として編纂する際には、多くの時間と労力がかかることが十分に予想される。青山学院は今年度137周年を迎えるが、例えば150年史を編纂するのであれば、いまから編纂体制を立てて始動しても早すぎるということはないと個人的には考える。

加えてもうひとつ重要な点として期待されるのが、「青山学院資料センター」がこれまでの事業に加え、学院の歴史を恒常的に調査研究するという役割をもつことである。『五十年史』の編纂に際して、資料の閲覧・提供はもちろん執筆過程でも多くの有益な助言をいただき、また編纂室が閉じられ行き先の困った膨大な資料を快く引き受けて整理・保管していただくなど、『五十年史』の刊行において「資料センター」はなくてはならない存在であった。このようなアーカイヴスとしての大きな役割を担っている「資料センター」が、調査研究機能をあわせ持つことによって、青山学院の歴史が実証的観点から継続的に研究されることになり、年史編纂の組織と有機的に連携すれば、編纂事業が円滑に進むことに繋がるのではないだろうか。さらにいえば、こうした試みは本学で行われている自校史教育などの教育活動や展示活動（現在は「資料センター」が相模原へ移転されているため休止中）の充実化においても有用となり、実現されれば「資料センター」は、近年急増している他大学のアーカイヴスに勝るとも劣らない特色ある機関として注目されることになる。

しかし、今後よりよい青山学院史を編纂するために何よりもまず必要なのは、多くの方々からの『五十年史』に対するご意見、ご批判であると思う。ぜひ手にとっていただき、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いである。

## 資料センター所蔵 貴重文献の史料

青山学院大学名誉教授 気賀健生

前回は聖書の稀覯本各種をとりあげましたが、今回は当資料センター所蔵の貴重な写真史料を紹介しましょう。これらはアメリカ合同メソヂスト教会史料館（ニュージャージー州マディソン市のドゥルー大学構内）に保管されている宣教師史料のうち、日本伝道の傍ら、彼等が撮った写真を筆者がコピーしたものです。中でもブル宣教師（Earl R. Bull 1911～26年在日）は、余程のカメラマニアであったとみえて、彼の撮った写真は各ミッションスクール、地方教会から、現在ではもう見られなくなった民衆の生活や街頭風景など、数百点に及んでいます。紙数の関係から、その幾つかを紹介しましょう。

まず、ブル宣教師の沖縄路傍伝道風景（写真①）。ブルは主として沖縄・九州方面で伝道をしました。勿論日本全国をくまなく訪れています。次に1872（明治5）年3月10日、横浜山下町に宣教師バラ（J. H. Ballagh）の建てた日本最初のプロテスタント教会（写真②）。この時代は日本のキリスト教黎明期で、未だ各宗派ごとの伝道は行なわれず、「日本基督公会」と呼ばれていました。これは奇しくも、1853年3月3日（旧暦3月31日）に、幕府がペリー提督と日米和親条約を結んだ、まさにその場所に建てられた教会です。

次は青山学院講堂前のミス・ムーン宣教師のバイブルクラス（写真③）。毎回100人以上参加者のあった彼女のバイブルクラスは夙に有名でした。1935（昭和10）年2月13日、青山一丁目での自動車事故で入院した瀕死のベッドで彼女は「どうぞあの運転手を処罰しないで下さい」と繰り返し、後にこれを聞いたタクシーの運転手は、感激してクリスチャンになったというエピソードは有名です。

この度、3月11日の東日本大震災の日、東京の交通機関が一時全面的にストップし、大勢の人々が帰宅できずに大混乱になりました。その時青山学院がいち早くキャンパスを開放して8000人の人々に救援の手をさしのべ、防寒シートや水や

非常食、救援物資を提供したことは、皆さん御承知のことと思いますが、実は1923（大正12）年の関東大震災の時にも、青山学院は同様の奉仕をしたのです。震災の直後から、青山学院ではボランティア救援隊を組織し、震災難民に食糧支援などの奉仕活動を行ないました（写真④⑤）。トラックの中央に立っているのはボランティアの指導者阿部義宗先生（のち院長）です。震災の9月1日はまだ校内の寮の学生が夏休から帰っていませんので、阿部義宗先生の英断で、当時流言飛語（風評）の犠牲となって迫害された「朝鮮人」（韓国人は当時そう呼ばれていました）を、学生寮（寄宿舎）に多勢収容して、彼らを救ったのでした。写真⑥はその寄宿舎です。現在の東門へ下る坂道の途中、大学3号館附近にありました。写真⑦は弘道館と呼ばれた大講堂の震災後の廃墟です。現在の本部あたりにありましたが、御覧の通りのあり様となってしまいました。

関東大震災直後には、皇居（当時は宮城と呼ば



① Bullの説教路傍伝道



② バラの教会



③ ミス・ムーンのバイブルクラス



④ 震災救援ボランティア



⑤ 食料配給ボランティア



⑥ 青山学院専門部寄宿舎



⑦ 弘道館の震災後

れていました)前にテント村ができ(写真⑧)、その後暫くの間罹災者達はこんな風景の中で暮していました。銀座通りも例外ではありませんでした。当時の銀座教会(写真⑨)と大震災後の銀座教会の廃墟(写真⑩)です。その銀座通りを犬がひっぱって荷車が通っています(写真⑪)。市電(都電ではありません)の線路と家並みの風景に注目。ブル宣教師時代の「旧き良き時代の銀座通り」ですね。

さて次はアイグルハート宣教師の路傍伝道風景です(写真⑫)。アイグルハート宣教師兄弟のうち、兄のエドウィンは戦前戦後を通じて日本在住の殆ど全期間を青山学院で教え、「神様が背広を着て歩く」と評された、その人格的感化を及ぼしたことは、どなたも御承知の通りです。弟のC.W.アイグルハートは青山学院でも教えました。弘前の東奥義塾で長い間奉仕しましたから、この路傍伝道も東北のどこかの町か村の風景でしょう。

次は稲荷神社でキツネと対面?している宣教師(写真⑬)です。恐らくスペンサー師(David Spencer)でしょう。一体、宣教師たちが不思議でならなかったことのひとつは、アジアで最も知的で文明開化の進んだ日本人が、何故獣を拜むのか、ということでした。

さて、その次は若き賀川豊彦です(写真⑭)。彼が神戸のスラム貧民街でボランティア活動をし

ていたことは、よく知られた事実ですが、これはその貴重な一場面です。

写真⑮は「九州で初めてのクリスチャンの葬儀」の光景です。田圃の中の葬儀で、珍しいでしょう。

最後に、現在ではもう殆ど見られなくなった街頭風景を幾つか御紹介しましょう。まずアメ売りのおじさんとそれを囲む子供たち(写真⑯)。おじさんはこのあと紙芝居をはじめます。次は街頭の下駄直し(写真⑰)。その次は神社の空地。当時の子供たちの恰好の遊び場でした(写真⑱)。輪になって遊ぶ子供達の服装は今日もう見られませんね。そしてお姉さんの子守り姿(写真⑲)。本当に宣教師たちはよくこういう光景を撮っておいたと思います。そして、神戸の路傍で物乞いをしているハンセン病親子(写真⑳)。1956年のローマ会議(癩病患者の救済と社会復帰のための国際会議)で、ハンセン病は癒る病気と認定され、日本の隔離主義は批判を受け、開放治療を謳った「ローマ宣言」が採択されました。然し日本ではつい最近まで、ハンセン病の差別政策がとられていました。この写真のようなハンセン病者の姿を、宣教師たちは明治・大正時代に、日本の至る所で目にしたのでしょう。

以上、宣教師たちの撮った<sup>かつ</sup>曾ての日本の姿でした。



⑧ 皇居前のテント村



⑪ 古きよき銀座通り



⑭ 賀川 in スラム



⑰ 下駄直し



⑮ 田んぼの中での基督教葬儀(九州)



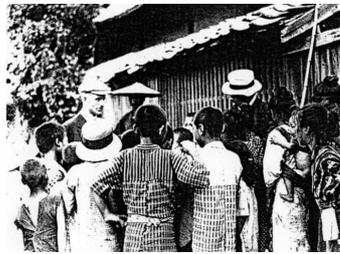
⑱ 境内で遊ぶ子どもたち



⑲ 子どもが子どものお守り  
(北海道大沼公園)



⑨ 銀座教会



⑫ C.W. アイグルハートの路傍伝道



⑯ アメ売りのオジサン



⑳ 施しを乞うハンセン病親子



⑩ ヤケアトの銀座教会



⑬ イナリと宣教師

# 2010年度後期受入れ 資料

(学内部署からの資料は除く)

## 寄贈(抜粋)

- 津田道夫様より、津田仙家族図 寄贈者作成 2010年10月
- 高屋豪瑩様より、『忘寿れな草』 高屋とく著 (コピー資料) 1926年6月
- 横溝達夫様より、『岩の会だより』No.18、No.19 大学第2部 宗教部岩の会
- 校友会青盾会事務局様より、青盾会会報『葛の輪』28号
- 青山学院理工会様より、青山学院理工会会誌 第57号
- 築地居留地研究会様より、『第三回外国人居留地研究会全国大会in東京2010-外国人居留地の環境と歴史にこれからの俯瞰する』DVD
- 日本基督教団北九州復興教会様より、『北九州復興教会伝道開始60周年記念誌』60周年記念誌編集委員会編 2010年10月
- 梶山幸良様より、中学部帽章、制帽のあご紐の留め金、襟章等中学部関係資料(1943~1948年)、学院関係バッジ各種(1950~1954年頃) ほか 計14種17点
- 日本基督教団聖ヶ丘教会様より、日本基督教団教会史・キリスト教主義学校史ほか 計25冊
- 笹森建英様より、『青森県における幼稚園教育の発達史的研究』野口伐名著 2010年11月
- 山北宣久様より、『日本伝道150年記念行事報告集 神の恵みの年』日本基督教団日本伝道150年記念行事準備委員会 2010年、写真「日本キリスト教団東部宣教大会」於：青山学院 1955年11月(複製)、全国基督教徒大親睦会写真出席者略歴(1883年5月開催)
- 西尾豊様より、青山学院初等部第4期生「同窓会通信」昭和52年4月号、昭和54年5月号、昭和61年10月号
- アパ・ルーム発行事務所様より、『アパ・ルーム』渥美彪編 2009年11・12月(No.354)~2010年11・12月(No.360) 各号3冊(日本語版、英語版、日・英・韓国語版)
- 吉岡勝見様より、『グリーンハーモニーOBニュース』No.42
- 徳永勉様より、中学部卒業証書(1948年3月)、大学第2回卒業式次第(1953年3月)、青山学院関係者の写真11枚、青山学院神学部職員及生徒の絵葉書(1922年)1枚(写真①)、熊本県花岡山遺跡絵葉書(河田家蔵版)3枚1組(写真②)
- 雨宮剛様より、『信仰と希望と愛-ジョナサン・正武・藤田牧師追悼集-』2011年3月 第2刷 高橋玲二・中條石・雨宮剛編
- 吉田恵子様より、初等部水泳教室の入賞のバッチ 於：勝浦 昭和33年(写真③)、高等部第一回球技大会の入賞のメダル 昭和48年頃(写真③)ほか
- 他大学・学校 年史・紀要類多数

## 購入

- 『回想 出隆』 出かず子編、岩波ブックセンター信山社、昭和57年
- 『農業雑誌』 第3号・第7号 津田仙編、東京麻布学農社、明治9年
- 『明治大家論集』 梅田君藏著、正文堂、明治21年
- 『教会之起源』 R. B. Rackham著、管寅吉訳、普光社、明治43年
- 『創世記講義』 安部清藏著、教文館、明治43年
- 『経済秘法廃物利用 すたれ物用い方』 初編・式編の2冊揃 (初編) 近藤賢三編著、(式編) 高橋要亮著、経済雑誌社、明治21年
- 『なてしこ』 第1巻第1号~第2巻第2号 8冊 井上賢吉編、庭訓社、明治36~37年
- 『農業世界』 第3巻第5号 石坂橋樹編、博文館、明治41年(写真①)
- 『聖霊の験 完』 デ・エム・ラング著、教文館(印刷所：青山学院実業部)、明治34年
- 『コップ物語 全 愛の働を為せしコップの話』 小湯山人訳述、教文館(印刷所：青山学院実業部)、明治34年
- 『珍らしき経験』 神原守文訳、教文館(印刷所：青山学院実業部)、明治34年
- 『基督信者経験のかずかず』 教文館(印刷所：小方仙之助、印刷所：青山学院実業部)、明治29年
- 『神の羔を見よ』 教文館(印刷所：小方仙之助、印刷所：青山学院実業部)、明治30年
- 『日本メソヂスト教會傳道會社總會第18回年報』 自明治35年7月 至明治36年4月、明治36年
- 『日本美普教會憲法及條例 全』 日本美普教會憲法及條例改正委員編纂、教文館、明治45年
- 『外国人雑居を止られん事を乞ふの建白』 「条約改正中の雑居の件に付て質疑」(2点セット)、明治22年
- チラシ「耶蘇教大説教會・於上野広小路上廣亭」、明治期
- 『勉強と遊戯』 元田作之進訳、日本聖公會出版社、明治43年
- 『日本基督教會傳道局創立25年史』 笹倉彌吉編、日本基督教會總務局、大正8年
- 『皇命・一名思の枝折』 ミス・ハヴルガル著 エチ、エビントン訳、基督教書類會社、明治26年
- 『祖国日本に訴う』 河上清著、時事通信社、昭和41年
- 『聖書辞典 全』 博士平文・山本秀煌編纂、基督教書類會社、明治25年
- 『米ソ戦わば?』 河上清著、日米通信社、昭和24年
- 『天神譜』 江南主教倪 准、上海慈母堂活版、明治19年
- 『無限生命』『慰藉の言葉』『天国案内』(3点セット) シー・イー・カウマン編、明治39年
- 『ベテレヘムの厩』 富田了山訳、教文館、明治40年(写真②)
- 『メソヂスト監督教會及カナダメソヂスト教會日本最初の宣教師』 絵葉書(開教記念1873-1913)、東京神田上方屋、大正2年
- 『開教当時の伝道所(横浜天安堂、東京小石川中村敬宇氏邸)』 絵葉書(開教記念1873-1913)、大正2年



写真① 青山学院神学部職員及び学生



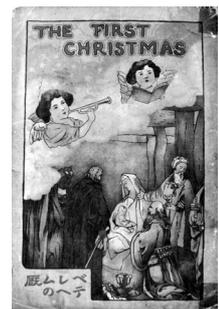
写真② 熊本県花岡山遺跡絵葉書



写真③ 初等部水泳教室入賞のバッチ(左)  
高等部球技大会入賞のメダル(右)



写真① 『農業世界』



写真② 『ベテレヘムの厩』

2010 年度後期

日誌 (抄録)



10月

閲覧 (青山)

- ・元職員、校史調査のため学院資料 (4回)。
- ・大学図書館員、レファレンス対応のため『護教』。

閲覧 (相模原)

- ・大学教員、業務のため学院資料。
- ・大学名誉教授、著述・論文作成のため校友伝記資料。
- ・大学職員、大学50年史調査のため学院資料 (2回)。
- ・大学職員、プロジェクト関係調査のため学院資料 (2回)。
- ・大学教員、考古学遺物閲覧のため。

レファレンス…9件 (大学の礼拝時間が1時限と2時限の間に設定されているのはなぜか、ほか)。

業務依頼

- ・大学図書館より、津田仙関係資料の内容確認依頼。
- ・本部管理部より、古い設計図面の保存について相談。

資料提供

- ・築地居留地研究会に、『築地居留地』第4巻へ掲載のため、スクリーンメーカーほか写真データ8点。

出張

- ・能版画についての調査のため千葉大学附属図書館へ。

11月

閲覧 (青山)

- ・大学教員、研究のため他校史資料。
- ・本部広報部職員、業務上調査のため学院資料。
- ・元職員、校史調査のため学院資料 (3回)。
- ・本学学部生、授業発表のため『青山学報』。
- ・校友、伝記資料調査のため『福音新報』。
- ・校友、同窓会のため「大学女子寮 (金王寮)」写真資料。
- ・他大学学生、論文作成のため『護教』。
- ・他大学教員、著述のため明治期基督教関係資料。
- ・一般の方、「村田若狭」調査のためメソジスト教会関係資料。

閲覧 (相模原)

- ・校友、論文作成のため緑岡小学校・緑岡初等学校資料。

レファレンス…13件 (青山キャンパス銀杏並木の由来について、ほか)。

来室 (青山)

- ・教団牧師、日本聖書神学校史調査のため、戦前・戦後の青山学院の神学部関係史について調査。

来室 (相模原)

- ・大学教員、本多庸一関係資料確認。
- ・姫路市立美術館学芸員、絵画『間島弟彦像』返却。

創立記念展示「青山学



創立記念パネル展示「青山学院のあゆみ」

院のあゆみ」実施 (宗教センター共催)。ガウチャー・メモリアル・チャペル入口、11月10日 (水)～同22日 (月)。(写真参照)

第2回資料センター運営委員会開催。

12月

閲覧 (青山)

- ・他大学教員、朝鮮留学生に関する論文作成のため学院関係資料、メソジスト教会関係資料 (2回)。
- ・元職員、校史調査のため学院資料 (3回)。

レファレンス…13件 (青山女学院高等女学部大正期の学科課程について、ほか)。

来室 (青山)

- ・教員ほか、明治期基督教関係資料図書データベース作成作業。

来室 (相模原)

- ・本部職員、戦前の本多庸一石膏型の確認。

業務依頼

- ・本部広報部より、作成中のWeb動画コンテンツ校正。
- ・大学キャンパス移行プロジェクトより、大学倉庫に保管してある資料のチェック。

資料提供

- ・青春出版社へ、『図解 歴史で読み解く東京の地理』(2011年2月発行)に、「再建後の海岸女学校」写真データ1点。
- ・大学史連絡協議会研究会に出席 (於：東京大学経済学部)。
- 『Aoyama Gakuin Archives Letter』第3号発行。

1月

閲覧 (青山)

- ・大学教員、調査研究のため明治期基督教関係図書。
- ・他大学教員、朝鮮留学生に関する論文作成のため学院関係資料、メソジスト教会関係資料。
- ・元職員、校史調査のため学院資料 (3回)。

閲覧 (相模原)

- ・大学教員、調査研究のため他校史資料。

レファレンス…12件 (「カレッジソング」は作曲ではなく編曲となっているのはなぜか、ほか)。

業務依頼

- ・本部広報部より、作成中のWeb動画コンテンツ校正。
- ・本部広報部より、『AGUニュース』『あなたと青山学院』に資料提供、原稿校正、典拠調査。

2月

閲覧 (青山)

- ・大学教員、論文作成のため学院資料。
- ・大学教員、基督教学校教育同盟関係資料 (2回)。
- ・他大学教員、青山女学院写真資料、「英文メソジスト監督教会婦人年会記録」。
- ・初等部教員3名、緑岡小学校関係資料。
- ・教会牧師、日本の海外伝道調査のため『護教』『護教索引』、メソジスト教会関係資料。
- ・韓国の方8名来室、『青山学院120年』『来日メソジスト宣教師事典』。
- ・元職員、校史調査のため学院資料 (4回)。
- ・校友、同窓会のため「大学女子寮 (金王寮)」写真資料。

- ・校友4名、緑岡小学校関係資料（3回）。
  - ・業者・本部広報部、Web動画準備のため学院資料。閲覧（相模原）
  - ・大学教員、学院史編纂のため学院資料。
  - ・他大学教員、研究のため青山女学院資料（4回）。
- レファレンス…13件（緑岡幼稚園の卒園生は何期までか、築地に幼稚園があったか？ほか）。

来室（青山）

- ・出版者の方、緑岡小学校絵日記閲覧。

業務依頼

- ・本部広報部より、作成中のWeb動画コンテンツ校正。

外部への問い合わせ

- ・茶道 表千家事務局へ、明治30年代前半に青山女学院にて表千家の宗匠が茶道の稽古を教えたという記録の有無。

### 3月

閲覧（青山）

- ・初等部元教員3名、緑岡小学校・緑岡初等学校関係資料。
- ・他大学教員、著述のため明治期基督教関係資料。
- ・外部団体研究員、基督教学校教育同盟関係資料。
- ・教会牧師、日本の海外伝道調査のため『護教』『護教索引』、メソジスト教会関係資料。
- ・元職員、校史調査のため学院資料（4回）。
- ・校友、緑岡小学校関係資料（2回）。

閲覧（相模原）

- ・一般の方、刊行物準備のため『小伝間島弟彦』、間島弟彦関係

資料。

レファレンス…6件（万代順四郎の経済人としての考え方に関する資料の有無について、ほか）。

業務依頼

- ・本部広報部より、WEB版『三粒の種』の原稿校正。
- ・本部広報部より、『あなたと青山学院』の原稿校正。
- ・本部総合企画部より、『事業報告書』沿革部分の校正。
- ・本部広報部より、外部団体刊行物の原稿校正。

資料提供

- ・本部広報部へ、各部入学式写真提供 計5カット。
- ・鎌倉英勝寺山門復興事業事務局へ、『東光山英勝寺』（2011年4月発行）に掲載のため、間島弟彦写真データ。

3月11日 東日本大震災発生。相模原キャンパス資料センター事務室のオープン書架から資料が落ちるなどの被害あり（写真参照）。青山分室は特段の被害なし。全学院でその後2週間、計画停電による列車の運休などの影響により、非常時体制として業務停止・勤務短縮など勤務体制が不規則となった。



震災後の相模原キャンパス資料センター事務室

## 青山学院資料センター利用案内

資料センターは、青山キャンパス再開発計画に伴い、2005年11月17日に間島記念館から下記2箇所へ臨時移転いたしました。移転期間中、展示はお休みいたします。閲覧希望の場合は、余裕を持って連絡してください。

### ★資料の閲覧曜日、時間

特定の研究目的を持って閲覧を希望される方々に青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開。

- ・相模原キャンパス N棟N403  
月曜日～金曜日 9時30分～17時
- ・青山キャンパス ウェスレー・ホール 2F（完全予約制）  
火曜日 9時30分～17時  
土曜日 9時30分～13時  
（2キャンパスとも 昼休み 11時30分～12時30分）

### ★休室日

日曜日・国民の祝日・クリスマス・年末年始・その他青山学院が定める休日

### ★夏期休業期間の開室（2011年7月11日～9月17日）

- ・相模原キャンパス  
月曜日～金曜日 9時30分～16時  
（8月の毎火・水は休み）
  - ・青山キャンパス  
火曜日のみ（完全予約制） 9時30分～16時  
（2キャンパスとも 昼休み 11時30分～12時30分）
- なお、2キャンパスとも7月31日～8月7日は一斉休業

### ★お問い合わせ・連絡先

TEL：03-3409-6742 FAX：03-3409-8134（2キャンパス共通）  
（相模原）〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1  
（青山）〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25  
URL <http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/>

## 資料センター運営委員

（任期2011年4月1日～2013年3月31日）

院長（職務上）	山北 宣久
常務理事1名（職務上）	西澤 宗英
学院宗教部長（職務上）	嶋田 順好
大学図書館長（職務上）	三村 優美子

大学 教員1名	清水 信行
女子短期大学 教員1名	八耳 俊文
高中部（高） 教員1名	佐藤 隆一
高中部（中） 教員1名	小田井 孝
初等部 教員1名	佐々木 淳
幼稚園 教員1名	川島 祥子
総局長（職務上）	岸 實
資料センター事務長（職務上）	傳農 和子

## 資料センタースタッフ人数

専任 2人  
パートタイマー 2人  
派遣 2人

# Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 4号

2011年7月5日

青山学院資料センター編・発行

